

26. 当部における顔面神経麻痺治療の現状と問題点

寺田泰蔵^{*1)*2)} 井上 治^{*1)} 野原 敦^{*1)}
砂川昌秀^{*1)} 平良 豊^{*2)*3)} 奥田佳郎^{*1)*3)}

^{*1)}琉球大学医学部附属病院高気圧治療部
^{*2)} 同 救急部
^{*3)}琉球大学医学部麻酔科学教室

【目的】 顔面神経麻痺に対する高気圧酸素療法(HBO)は有用との報告が散見されるが、見解は定まっていない。そこでHBOの適応として当部を紹介された症例を検討した。

【対象】 過去8年間に顔面神経麻痺で当部にてHBOを行った患者18例(Bell麻痺15例, Ramsay Hunt症候群2例, 歯科麻酔後顔面神経損傷1例), 4~81歳(平均40歳), 男12例, 女6例, いずれも片側で(右12例, 左6例), 発症から初診までの期間は平均12日(1日~62日)であった。

【方法】 全例にHBO(2.0~2.4ATA, 60分/日, 13.6±6.3回)が行われ, ステロイド投与と星状神経節ブロックの併用を12例に行った。

【結果】 麻痺スコアはHBO前後で比較を行った13例において, 治療開始時7.4±7.8, 治療終了時28.7±9.1と明らかな改善を認めた。

Electroneurographyは4例でのみHBO前後で比較したが, 一定の傾向を示さなかった。

【考察】 当部でのHBOを主体とした治療法では, 多数例で発症早期に臨床症状の改善を認めた。しかし顔面神経麻痺は自然治癒傾向があり, またステロイドなどを併用したため, HBOが症状の改善に寄与した度合いは不明だった。今後, 長期予後に対する評価を行い, 他の治療法との有用性や適応の検討が必要であろう。

27. 四肢感染症に対する高気圧酸素治療

川島真人 田村裕昭 高尾勝浩
吉田公博
(医療法人玄真堂川島整形外科病院)

近年, 好気性菌に対してもHBOが有効であることが証明され, 積極的にHBOが応用されている。

1981年6月~1997年12月までに当院で行われた四肢感染症領域の疾患は, ガス壊疽, 壊疽性筋膜炎, 骨髄炎である。

【方法】 ガス壊疽, 壊疽性筋膜炎に対しては, 2.8ATA下で60分間の純酸素吸入を, 一日に1~2回, 3日間行い, 効果がみられた時は, 2.0ATA下で60分間の純酸素吸入を, 一日に1回, 改善があるまで行った。骨髄炎に対しては, 2.0ATA下で純酸素吸入を1時間, 一日に1回, 計30回行い, これを1クールとした。手術的治療との併用群では, 原則として術前に1クール, 術後に1クールを行った。装置は, 中村鐵工所製第2種高気圧治療装置を使用した。

【症例】 ガス壊疽32例, 壊疽性筋膜炎6例, 骨髄炎419例であった。疾患別に年齢・性別・部位を集計した。ガス壊疽は, 17~85歳, 平均50.2歳・男27例, 女5例・下肢26例, 上肢5例, 臀部1例であった。壊疽性筋膜炎は, 18~81歳, 平均58.7歳・男5例, 女1例・足部, 下肢各2例, 手部, 下腿部各1例であった。骨髄炎は, 7~89歳, 平均53.6歳・男285例, 女134例・下腿骨が147例と最も多く, 大腿骨114例と続く。

【結果】 いずれの疾患に対しても, 良好な効果が得られた。